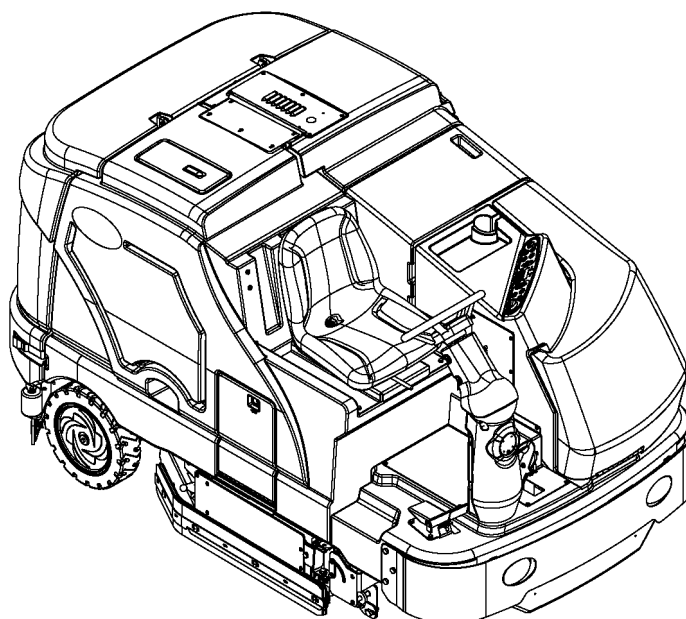




FORM NO. 56091081



ecoflex™



エンジン式搭乗型スーパースクラバー **SC8000**

取扱説明書

2018.08



Nilfisk
trusted since 1906

目次

ご使用になる前に	2
取扱説明書の保管について	2
製品情報	2
安全にお使いいただくために	3
危険／警告／注意表示	3
開封／配送	4
製品仕様	5
各部名称	5
技術仕様	9
使用前の準備	10
本機の持ち上げ(ジャッキアップ)	10
本機の移送	10
本機の移動	11
使用前の確認事項	12
エンジンオイル	13
クーラント	13
エンジンエアーフィルター	14
燃料	14
ディーゼルエンジン	14
ブラシの取り付け	15
清水タンクへの注入	16
操作方法	17
エンジンの始動	17
自動洗剤希釈システムの準備と使用方法(EcoFlex)	18
パージ(除去)作業	18
希釈率を変更する場合	19
スクラビング	20
使用後のお手入れ	24
メンテナンス	25
メンテナンススケジュール	25
注油方法	26
サイドブラシのメンテナンス	27
スクイジーのメンテナンス	28
スクイジーの調整	28
サイドスカートメンテナンス	30
ホッパーのメンテナンス	32
トラブルシューティング	33
アクセサリー／オプション	35
アフターサービスと保証	37

この度は、エンジン式搭乗型スクラバーSC8000を

お買い上げいただき、誠にありがとうございます。

ご使用になる前に

この取扱説明書は本機の操作、調整、点検等に必要な事項が記載されています。
ご使用前に必ずこの取扱説明書をよくお読みになり、各機能を十分ご理解の上、末永くご愛用いただきますようお願いいたします。

アフターサービス等は、お買い上げいただいた販売店までご連絡ください。
その際は、必ず型番とシリアルナンバーをお知らせいただきますようお願いいたします。

取扱説明書の保管について

本書は水やその他の物質からの損傷を防ぐため、適当なケースの中に入れて、本機の近くで保管してください。

製品情報

本機の型番とシリアルナンバーは銘板に記載されています。
本機のシリアルナンバーを下記の表に記入しておいてください。

本機のシリアルナンバーを記入しておいてください。

型番： SC8000 1300 D / 1600 D

シリアルナンバー：

今後のサービスのため、取扱説明書は大切に保管しておいてください。

安全にお使いいただくために

危険／警告／注意表示

弊社は潜在的な危険を表わすために、以下のマークを使用しています。
本取扱説明書をすべてよくお読みのうえ、人的・物的被害を避けるために必要な手順を行ってください。



危険！

死または重症を負う可能性のある即時危険を警告するために使用されます。



警告！

重症を負う可能性のある状況への注意を喚起するために使用されます。



注意！

人にケガを負わせたり、本体やまわりの物に損害を与える可能性のある状況への注意を喚起するために使用されます。



注記

使用上の重要な情報や有益な情報、補足説明などです。

火災、感電、けがなどの事故を事前に防ぐ為に、下記の注意事項すべてをよくお読みのうえ、指示に従って正しく使用してください。

また、本機に貼られているラベルの注意事項もよくお読みください。



危険！

- 本機は深刻な身体への被害や死をも招く可能性のある一酸化炭素ガスを排出します。
- 必ず換気の良い場所で本機を操作してください。



警告！

- 本機は、十分に使用条件や操作方法を習熟してからお使いください。
- 傾斜のある場所では急停止、急旋回をしないでください。
傾斜地を下る場合には、速度を調整するためにブレーキペダル(23)を踏みゆっくり走行してください。
- 傾斜限度を超えた箇所の清掃には使用しないでください。
清掃時の傾斜限度は **10.5%(6°)**、移動時の傾斜限度は **16%(9°)** です。
- 油圧オイルによるケガを避けるために、油圧オイルシステム付近で作業をされる場合には必ず適切な衣服、防護メガネを着用してください。
- 電子部品の修理を行なう場合には必ずキースイッチ(50)をオフ(O)にしてバッテリーを外してください。
- 本機を安全に固定する支持具を使用せずに、本機の下で作業を行なわないでください。
- 引火性のある洗浄剤を決して使用しないでください。引火性洗剤の付近で本機を操作しないでください。
また、起爆性のある液体の近くで使用しないでください。
- 本機を高圧洗浄機で清掃しないでください。
- 作業場所、リフト、支持具が本体の重量に耐えられることを確認してください。
- 落下物によるけがを防ぐため、落下防止対策がとられていない場所での作業はお止めください。
- 安全に本機を停めてください。
- 定期的な有資格者による点検を行ってください。



注意！

- 本機を公道では、使用しないでください。
- 本機は人体に有害な物質の回収には適しません。
- 研磨ディスクや砥石をご使用になる場合には、特に注意してください。
弊社は研磨ディスクや砥石を使用したことによる床面への損傷の責任は負いかねます。
- 本機を使用の際には、周囲、特に子供に危険がないよう注意してください。
- メンテナンスを行う際は、必ずキースイッチ(50)をオフ(O)にし、キーを本機から抜いてください。
- サービスを行なう前に、必ず本書の関連事項をよくお読みください。
- 本機から離れる場合は、必ず水平な場所でキースイッチ(50)をオフ(O)にして、キーを抜き、パーキングブレーキをかけてください。
- ブラシの交換や、アクセスパネルを開く場合には必ずキースイッチ(50)をオフ(O)にしてください。
- 本機の動作部分に髪の毛やアクセサリー類、衣服などが巻き込まれないように十分に注意してください。
- 清水タンクや回収タンク、ホース等の水が凍る可能性があるため、氷点下の場所で本機を移動する場合は十分に注意してください。
- 使用する前に、本機の開口部が全て閉まっていることを確認してください。
- 常識に従って安全に本機を操作してください。
- 本体上の黄色の警告ラベルもよくお読みください。
- 真つすぐ走行してください。
- 不明な点等があれば、お買い求めいただいた販売店または弊社までご連絡ください。
- 本機の異常を感じたら、メンテナンスの項を参照し、それでも解決しない場合は指定のサービスセンターにご連絡ください。資格を持ったサービスマンが修理を行います。



注記

本書に出てくる()内の数字は指定がない限り、P5~8 の各部名称のページを参照してください。

開梱／配送

本機が配送されてきた際に(受け取られた際)、外箱や本体に輸送中の破損等がないか確認してください。
目視で破損が確認できる場合には、外箱を保管して、配送会社にご連絡ください。

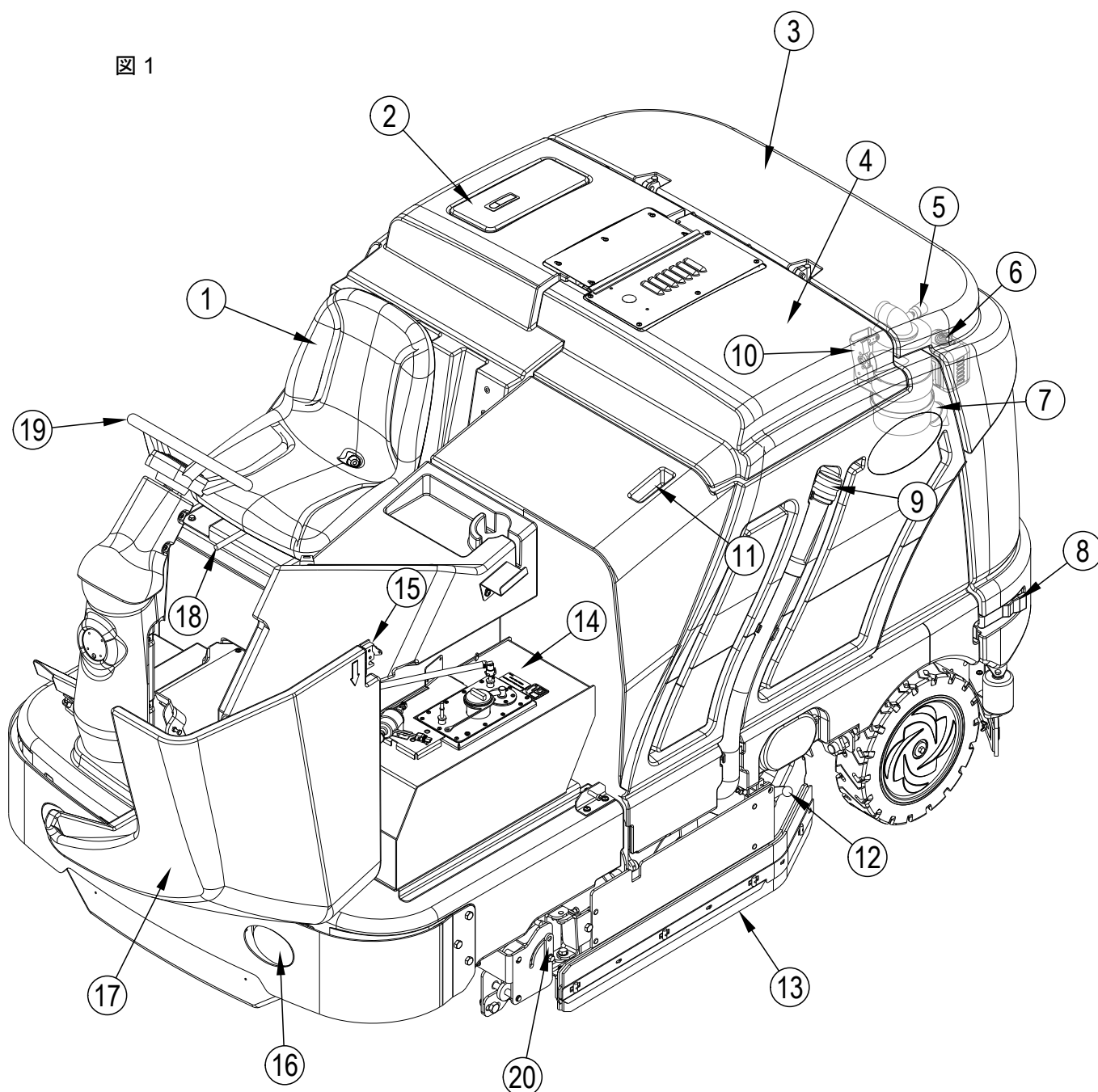
1. 梱包材を取り除き、タイヤの車輪止めを外します。
2. エンジンオイルとクーラントの量を確認してください。
3. 油圧オイルの量を確認してください。
4. 本取扱説明書の使用前の準備の項を参照し、燃料タンクに注油します。
5. パレットの先端にタラップを置きます。
6. 本書の操作方法の項を参照し、エンジンを始動させます。
慎重にゆっくりと本機を前進させ、床に移動させます。
本機がパレットから床に移動するまで、常にブレーキペダルを軽く踏んでいてください。

製品仕様

各部名称

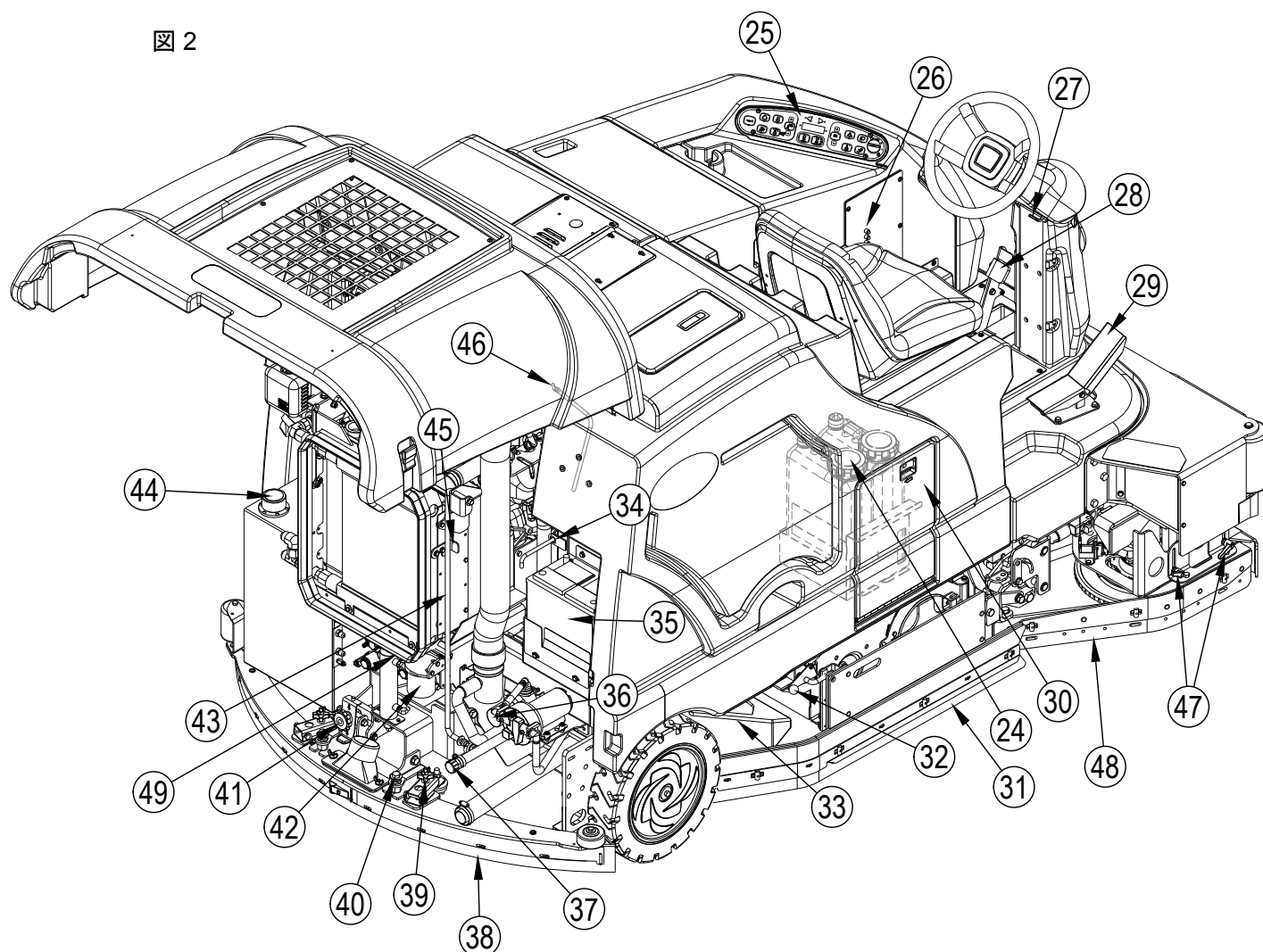
- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1. シート | 11. 回収タンク傾け用グリップ |
| 2. 清水タンクカバー | 12. 左側スカートラッチ |
| 3. エンジンカバー | 13. 左側スカート |
| 4. 回収タンクカバー | 14. 燃料タンク |
| 5. エンジンエアフィルター警告灯 | 15. 燃料タンクカバーラッチ |
| 6. クーラントタンク | 16. ヘッドライト |
| 7. エンジンエアフィルター | 17. 燃料タンクカバー |
| 8. エンジンカバーラッチ | 18. シート調整レバー |
| 9. 回収タンク排水ホース | 19. ハンドル |
| 10. 回収タンク傾け用ラッチ | 20. ダブルスクラブスカートホルダー |

図 1



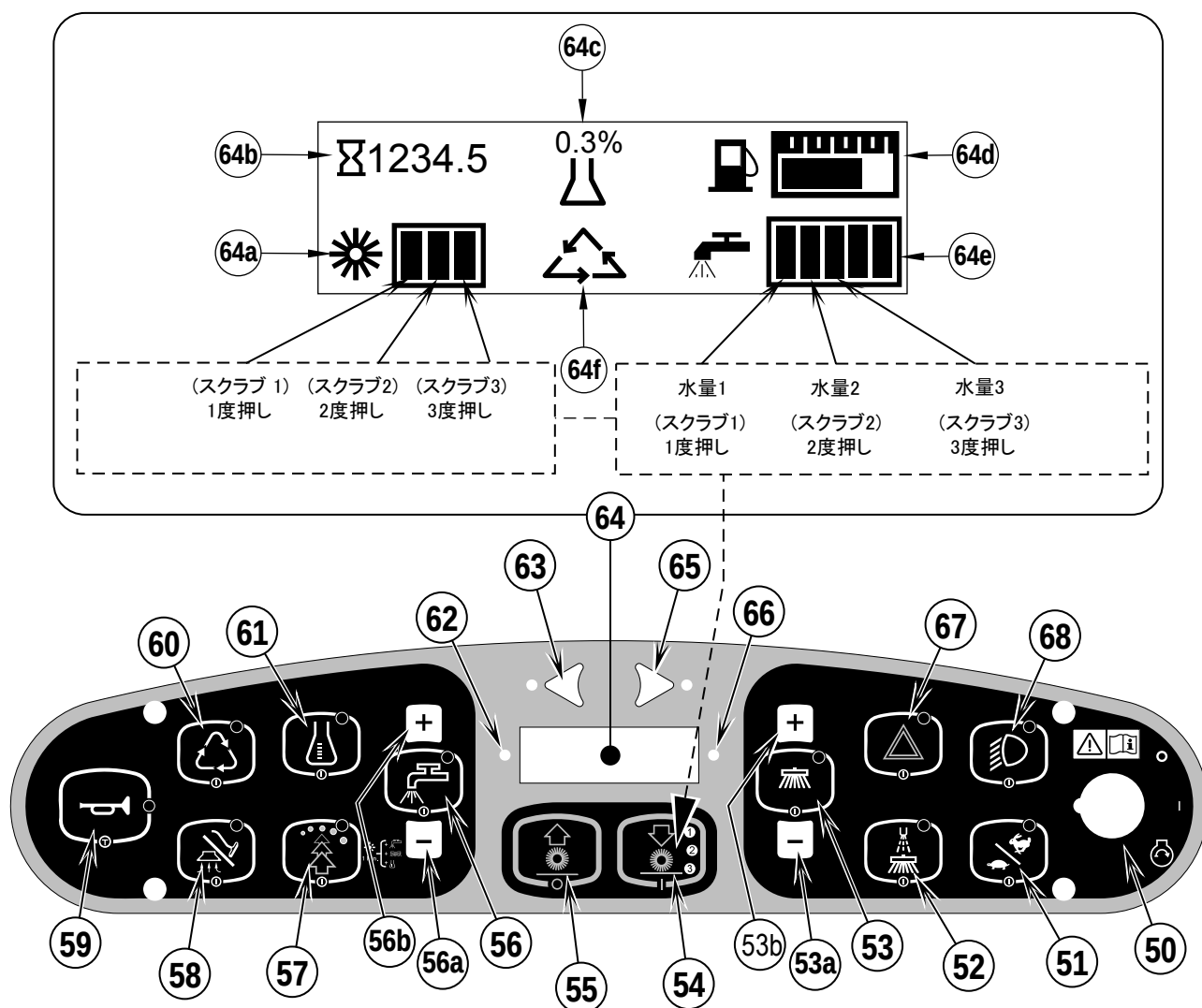
- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| 24. 洗剤カートリッジ | 37. 清水タンク排水ホース |
| 25. 操作パネル | 38. スクイジー |
| 26. サーキットブレーカーパネル | 39. スクイジー高さ調整ノブ |
| 27. ハンドル角度調整レバー | 40. スクイジー固定レンチ |
| 28. ブレーキペダル/パーキングブレーキ | 41. スクイジー傾き調整ノブ |
| 29. アクセルペダル/前後進 | 42. エンジンオイルフィルター |
| 30. 洗剤カートリッジボックス | 43. エンジンカバー用ロッド |
| 31. 右側スカート | 44. 油圧オイル注入口 |
| 32. 右側スカートラッチ | 45. オイルクーラー傾け用ラッチ |
| 33. ホッパー | 46. エンジンオイル計量棒 |
| 34. 牽引バルブレバー | 47. 右側スクラブスカート固定ノブ |
| 35. バッテリー | 48. 右側スクラブスカート |
| 36. 清水フィルター | 49. エンジンオイルドレン(ラジエーター下) |

図 2



50. キースイッチ
51. エンジンスピードスイッチ
52. ダストガードスイッチ
53. サイドブラシ/スクラブ ON/OFF スイッチ
- 53a. サイドブラシ降下調整スイッチ
- 53b. サイドブラシ上昇調整スイッチ
54. スクラブ ON/スクラブモードスイッチ
55. スクラブ OFF スイッチ
56. 清水スイッチ
- 56a. 清水量低減スイッチ
- 56b. 清水量増加スイッチ
57. EcoFlex スイッチ
58. バキューム/ワンドスイッチ(オプション)
(取り付けはサービスマニュアルを参照ください。)
59. ホーンスイッチ
60. 汚水リサイクル(オプション)スイッチ
(取り付けはサービスマニュアルを参照ください。)
61. 洗剤希釈システムスイッチ(EcoFlexモード時)
62. 警告灯(赤)
点灯時は次頁の液晶表示をご確認ください。
63. 左ウィンカースイッチ(オプション)
64. ディスプレイ
- 64a. スクラブ圧メーター
- 64b. アワーメーター
- 64c. 希釈率メーター(希釈システム搭載時)
- 64d. 燃料計
- 64e. 清水流量
- 64f. 汚水リサイクルメーター(オプション)
65. 右ウィンカースイッチ(オプション)
66. 注意表示灯(黄色)
点灯時は次頁の液晶表示をご確認ください。
67. 緊急表示灯(オプション)
68. ヘッドライトスイッチ

図 3



62. 警告灯(赤)

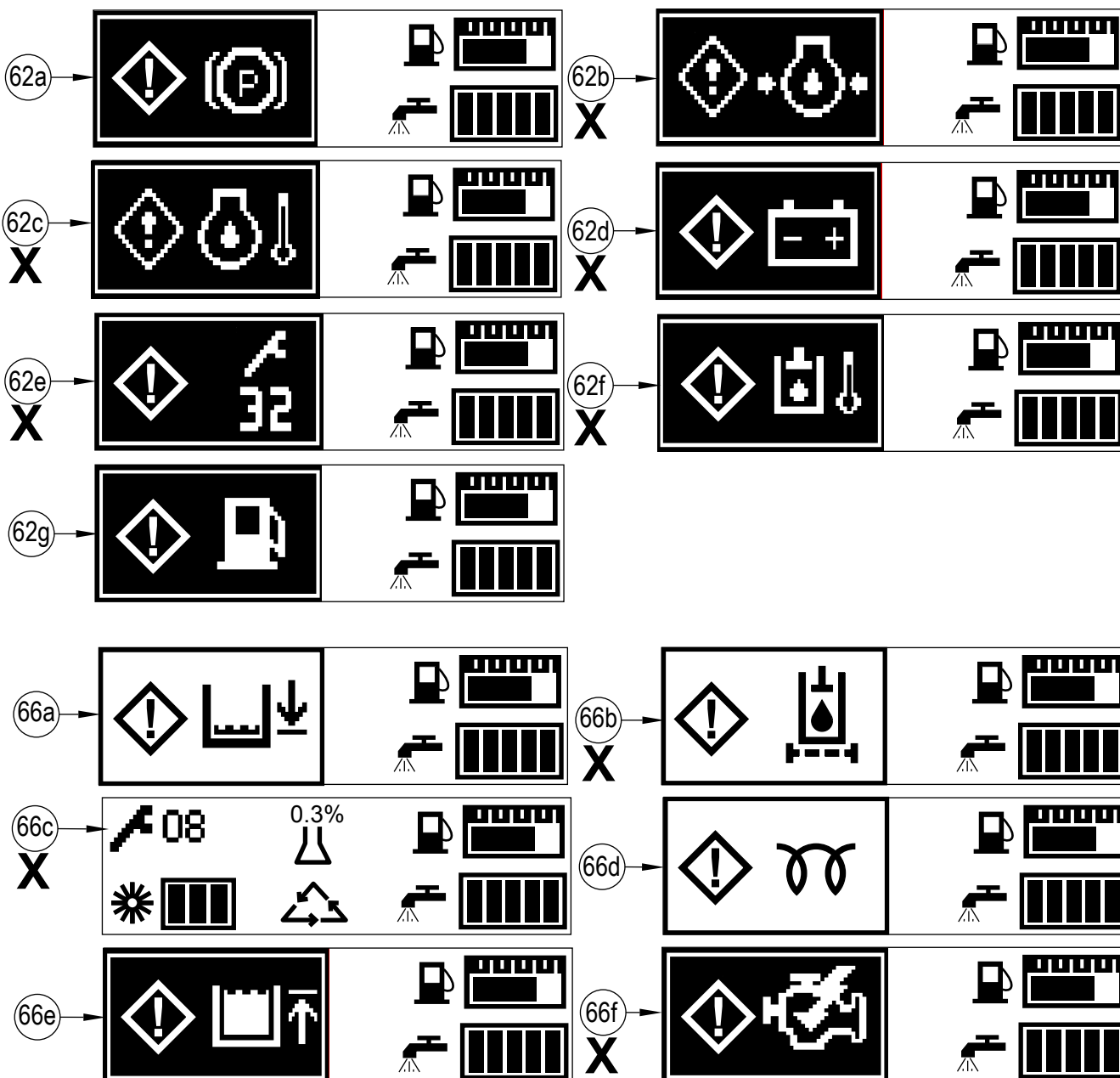
- 62a パーキングブレーキ ON
- 62b オイル圧
- 62c エンジン温度
- 62d バッテリー不足
- 62e コントローラーエラー
- 62f 油圧温度
- 62g 燃料不足

66. 注意表示灯(黄色)

- 66a 清水不足
- 66b 油圧フィルター詰まり
- 66c エラー
- 66d グロープラグ
- 66e 回収タンク警告灯
- 66f エンジン点検

以下の表示灯のうち、X の表示された警告灯、注意表示灯が点灯した場合には、弊社サービスセンターまでご連絡ください。

図 4



技術仕様

	SC8000 1300 D	SC8000 1600 D
エンジンタイプ	KUBOTA 4cyl、37.5HP、1.5L ディーゼルエンジン	
スイープ幅 (mm)	1,570	1,520
スクラブ幅 (mm)	1,220	1,520
清掃能力/理論値 (m ² /h)	15,860	19,760
清掃能力/実測値 (m ² /h)	11,100	13,900
清水タンク容量 (L)	380	
回収タンク容量 (L)	380	
ホッパー容量 (L)	42	
燃料タンク容量 (L)	48	
メインブラシ寸法(mm) / 個数	280 x 1220 / 2個	
ブラシ回転数 (RPM)	470	
ブラシ圧 (KG)	55 /110 /180	
サイドブラシ幅 (mm)	510	-
右側スクラブブラシ寸法 (mm)	-	410
右側スクラブブラシ回転数 (RPM)	-	180
右側スクラブブラシ圧 (KG)	-	34 /45 /63
走行速度 (KM/h)	0~13	
風量 (L/S)	170	
静圧 (KPA)	10	
騒音レベル (dB(A))	83	
最小回転径 (cm)	302	330
登坂能力（移動時）（% / 角度）	16 / 9°	
登坂能力（清掃時）（% / 角度）	10.5 / 6°	
水量 4段階 (L/min)	7.0/ 10.2 /13.0 /16.0	
スクイージー幅 (mm)	1,520	
寸法 L x W x H (cm)	254 x 142 x 147	254 x 167 x 147
質量（作業時） (KG)	1,730	1,834

* 仕様は予告なく変更されることがあります。あらかじめご了承ください。

使用前の準備

本機の持ち上げ(ジャッキアップ)



注意！

本機を安全に固定する支持具を使用せずに、本機の下で作業を行なわないでください。

本機を持ち上げる場合には、図 5 の位置(A)で本機を支えてください。

本機の移送

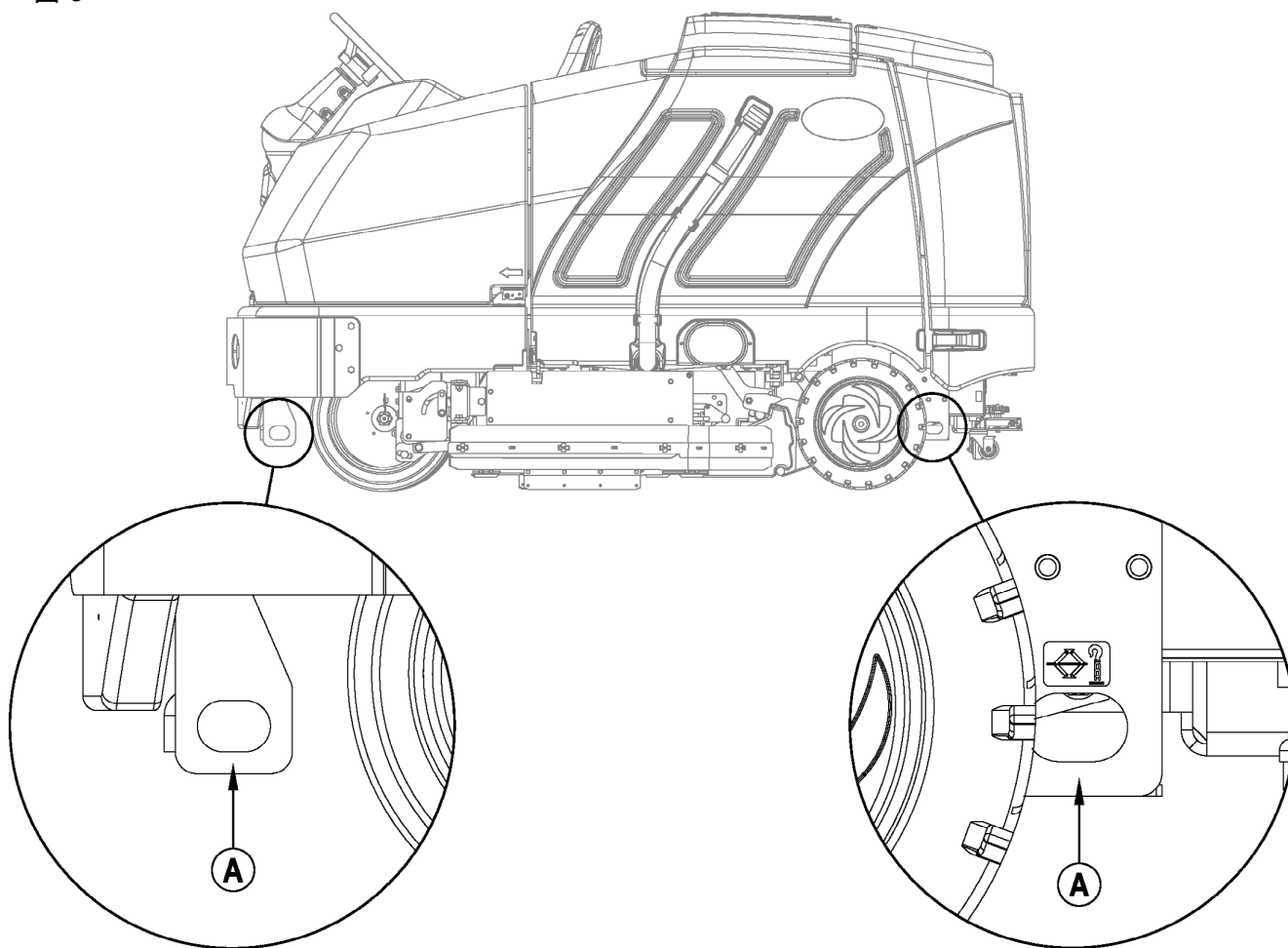


注意！

トラックなどで輸送する際には、必ず以下のことを確認してください。

- すべてのドア部分がしっかり閉じているか
- 本機がしっかり固定されているか (図 5 の位置(A)を確認)
- パーキングブレーキ(28)がかかっているか

図 5



本機の移動



注意！

本機の駆動ポンプには、牽引用バルブが装備されています。
エンジンを使わずに短い距離を牽引して移動する際に、牽引用バルブのロックを解除することで油圧システムへのダメージを防ぎます。

本機を牽引する場合は、以下の手順、注意事項を守ってください。

1. エンジンカバー(3)を開けて牽引バルブレバー(34)を押し込み、モーターとポンプ間の油圧システムのロックを解除します。



注意！

牽引バルブが通常の位置(牽引バルブレバー(34)が引いてある＝ロック状態)のまま本機を牽引または押したりすると、油圧ポンプにダメージを与える恐れがありますのでお止めください。



注記

牽引バルブがフリーホイールの位置(牽引バルブレバー(34)が押し込まれている＝ロック解除)の場合、油圧ポンプで本機を前進／後進させることはできません。
牽引バルブがロック(部分的にでも)されていると、フルスピードでは動きません。

2. 牽引重量に耐えるロープなどを本体に固定し移動してください。
3. 移動が完了したら、牽引バルブレバー(34)を引き、通常の作動位置にセットしてください。



注意！

この状態で長時間の移動は、油圧システムのオーバーヒートや破損の原因となりますのでお止めください。



注意！

本機を牽引する場合には、通常の歩く速度(3~4km/時)よりも速く動かさないでください。
牽引は短距離(100m以下)の移動の場合のみ行ってください。
長距離の移動をする場合には、必ず前輪を床から持ち上げ、適切な輸送用の台車に載せてください。

使用前の確認事項

毎回使用前に

- 本機の各部に損傷がないか、オイルやクーラントの漏れがないか確認してください。
- エンジンエアフィルター(7)のゴムカップ部をつまみ堆積したホコリを取り除いてください。
- クーラントの量を確認してください。(6)
- エンジンオイルの量を確認してください。(46)
- 油圧オイルの量を確認してください。(44)
- ディスプレイ(64d)で燃料の量を確認してください。
- エアフィルター警告灯(5)が表示されていないことを確認してください。

シートに座って

- 本機の操作方法、各部の機能について確認してください。
- 全ての操作部分に手が届くようにシート位置を調節してください。
- キーを差し、キースイッチ(50)をオン(I)の位置に回し、ホーン(59)、アワーマーター(64b)、ヘッドライト(68)が作動することを確認してください。
- キースイッチを(50)をオフ(O)にしてください。
- ブレーキペダル(28)に 踏み応えがあり、床にペダルがついていないことを確認してください。
踏み応えがない場合には、すぐに弊社サービスセンターまたは販売代理店までご連絡ください。

清掃コースの選定

- ストップ／スタートをできるだけ少なく、長い距離を清掃できるように設定してください。
- 清掃面にもれがないように、必ず清掃幅が 5~8cm 程重なるようにコース取りをしてください。
- 急な旋回を避け、柱などへぶつかったり本機の端をこするなどはしないようにしてください。

油圧オイル

- エンジンカバー(3)を持ち上げます。必ずエンジンカバー用ロッド(43)でカバーを支えてください。
- 油圧オイルタンクのキャップ(44)を外し、内側のフィルタースクリーン底部を確認してください。
- 油圧オイルの量がフィルタースクリーン底部より下にある場合は、10W30 モーターオイルをフィルタースクリーン底部が覆われるまで補充します。
(決してオイル量がスクリーン底部より 12.7mm 以上、上回らないようにしてください。)
- 本機の不具合等により、油圧オイルが汚れた場合にはオイルを交換してください。

エンジンオイル

水平な場所に本機を停車して、エンジンが冷えている状態でエンジンオイルの量を確認してください。

- 本機を使用して最初の 35 時間後、それ以降は 150 時間経過毎にエンジンオイルを交換してください。
- API 規格(アメリカ石油協会の規格)に合った、CF、CF-4またはCG-4 のエンジンオイルを使用してください。
また、季節の気温に合ったエンジンオイルを使用してください。
(推奨ディーゼルオイルの詳細については、下記の*燃料タイプ表を参照ください。)
- エンジンオイルの容量、その他のエンジン仕様については、エンジンシステムの頁を参照してください。
- エンジンオイルを交換する際には、必ずオイルフィルターも交換してください。

気温	オイル規格・粘度
摂氏 25°C 以上	SAE 30 または 10W-30
摂氏 0~25°C	SAE 20 または 10W-30
摂氏 0°C 以下	SAE 10W または 10W-30

* ディーゼル潤滑油タイプ表

現行の排出ガス規制に基づき、一般道路走行車エンジン用の低硫黄燃料に使用するために CF-4 と CG-4 という潤滑油が開発されました。一方、オフロード用車両エンジンの高硫黄燃料向けにはCF,CDまたはCEの潤滑油を推奨します。高硫黄燃料向けにCF-4 と CG-4に使用されている場合は、交換時期を早めてください。

- ご使用の燃料が低硫黄燃料か高硫黄燃料によって適する潤滑油は変わります。

潤滑油 \ 燃料	低硫黄燃料 (0.5% ≥)	高硫黄燃料	備考
CF	○	○	TBN ≥ 10
CF-4	○	×	
CG-4	○	×	

クーラント



注意！

エンジンが熱い間は決してラジエーターキャップを外さないでください。

- エンジンカバー(3)を開け、カバー用ロッド(43)で支えてから、クーラントタンク(6)のクーラントの量を確認します。
- クーラントの量が少ない場合には、適度に希釈した自動車用の不凍タイプのクーラントを補充してください。
- 30 時間使用毎に、ラジエーターとオイルクーラーを低圧水か圧縮空気で清掃してください。
- オイルクーラーは、清掃のため傾け用ラッチ(45)を使用し傾けることができます。

エンジンエアフィルター

本機をご使用前に必ずエアフィルター警告灯(5)を確認してください。
赤の警告灯が点灯したらメンテナンスを行ってください。



注意！

エンジンに重大なダメージを与える恐れがありますのでエンジンエアフィルターのメンテナンスをする際には、エンジンにホコリが入らないように、細心の注意を払ってください。

- エンジンエアフィルターには、プライマリーフィルター(外側)とセーフティーフィルター(内側)があります。
- プライマリーフィルターは 2 回清掃したら、交換してください。
- セーフティーフィルターはプライマリーフィルターを 3 回交換する毎に交換してください。
- 決してセーフティーフィルターは洗わないでください。
- プライマリーフィルターを清掃するには、エアフィルターの下の 2 つのクリップを外し、フタを取り外して、プライマリーフィルターを引き抜きます。
- 圧縮空気(最大 100psi=690kPa)か水(最大圧 40psi=270kPa)を使ってプライマリーフィルターを清掃します。
- プライマリーフィルターが完全に乾いてから、エアフィルターに戻してください。

燃料



警告！

燃料タンクに燃料を補充する前に必ずエンジンを切ってください。

燃料タンクの補充中には決して喫煙をしないでください。

燃料の補充は換気の良い場所で行ってください。

火花や火炎のある場所では決して燃料の補充を行わないでください。

燃料タンクに記載の適切な燃料のみご使用ください。

燃料タンク(14)の注入口付近には燃料の規格を記載したシールが貼ってあります。

燃料をできる限りきれいな状態に保つため、燃料タンクからキャップを外す前に、必ずキャップやタンク上部のホコリや汚れを取り除いてください。

ディーゼルエンジン

本機を使用する環境が摂氏 0°C 以上の場合は、2 号軽油をご使用ください。

摂氏 0°C 以下の場合は、1 号軽油をご使用ください。



注記

ディーゼル式のモデルの場合、完全に燃料がなくなってしまうと、エア抜きをしなければいけません。
必ず燃料切れを起こす前に燃料の補充をしてください。

燃料計が 1/4 になったら補充してください。タンク容量は 42L です。

ブラシの取り付け

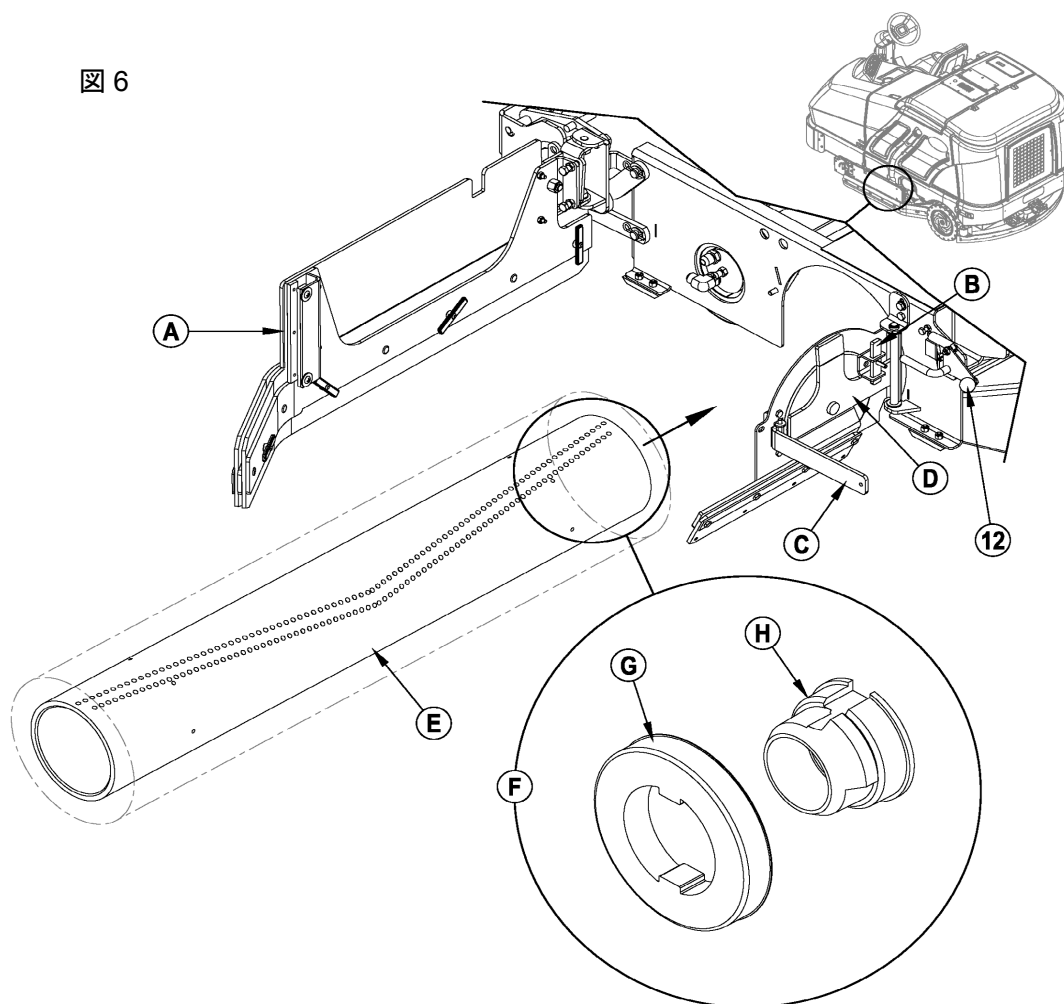


注意！

ブラシの交換や、アクセスパネルを開ける前に必ずキースイッチ(50)をオフ(O)にして、キーを抜いてください。

1. スクラブデッキが上がった状態で、キースイッチ(50)がオフ(O)、パーキングブレーキ(28)がかかっていることを確認してください。
2. サイドスカートラッチ(図 6-12、図 2-32)を押し下げて、スカートアッセンブリー(A)を下図のように開きます。
3. ラッチ(B)を持ち上げてレバー(C)を動かし、引っ張るとアイドラアッセンブリー(D)が開きます。
4. ブラシ(E)をハウジングに挿入し、軽く持ち上げて所定の位置に収まるまで押しながらねじります。
5. レバー(C)をアイドラアッセンブリー(D)に対して 90° にした状態でアッセンブリー(D)を閉じます。
6. アッセンブリー(D)がきちんと閉まったら、レバー(C)をラッチ(B)で止めます。
7. サイドスカートラッチ(図 6-12、図 2-32)を押し下げた状態で、スカートアッセンブリー(A)を閉じ、ラッチを放します。

図 6



注記

詳細図(F)はブラシラグ(G)とブラシドライブハブ(H)を表しています。



注記

メンテナンススケジュールに記載のブラシの向きを入れ替える場合は、このページを参照してください。

清水タンクへの注入

- 本機の清水タンクは 378.5ℓまで清水／洗浄液を注入できます。
- 清水タンクの注入口(2)から 7.5cm の位置で注入をやめてください。(図7参照)
- 清水タンクには、水と清掃作業に合わせた適切な洗剤を入れてください。
- 使用する洗剤容器に記載の希釈率の指示に従ってください。



注記

EcoFlexシステムでは、従来通り清水タンクで洗剤を混合して使用することも、自動洗剤希釈システム（オプション）を使うこともできます。

自動洗剤希釈システムを使用する場合は、清水タンクには清水のみ入れてください。
決して洗剤を混ぜないでください。

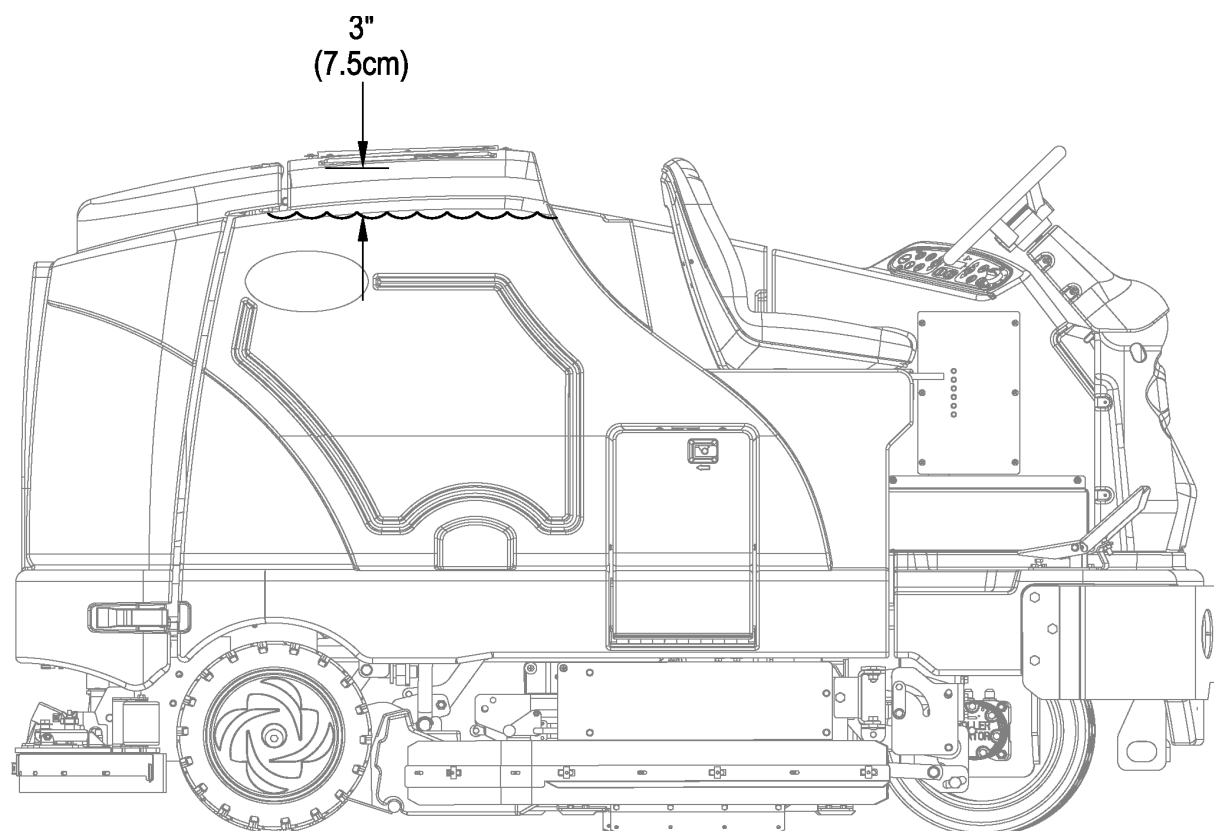
自動洗剤希釈システムの準備の項を参照してください。



注意！

床洗浄機用の低泡性、非可燃性の液体洗剤のみ使用してください。
水の温度は摂氏 54℃を超えないようにしてください。

図 7



操作方法

本機は搭乗式の自動床洗浄機です。

一度の通過で床面に洗剤(清水)を塗布、洗浄し、汚水を回収して床面を乾かすことができます。

本機はワンタッチで操作できるように留意して設計されており、作業者はスイッチひとつで全てのスクラブ機能を作動できます。



注意！

アクセルペダルがニュートラルの位置になっていることを確認してください。

アクセルペダルがニュートラル以外の位置ではエンジンはかかりません。

エンジンをかける前に、シートのセーフティスイッチが閉じている、もしくはブレーキがかかっていることを確認してください。

エンジンの始動

1. キースイッチ(50)を回して本機を オン(I)にします。
10秒間グロープラグが作動して、注意表示等(66)が点灯し、ディスプレイにグロープラグアイコン(66d)が表示されます。
エンジンが既に温まっている場合には、キースイッチ(50)をスタート位置に回してエンジンをかけます。
エンジンが温まっていない場合には、注意表示等とグロープラグアイコンが消えるのを待ってからエンジンをかけてください。
15秒以内にエンジンが始動しない場合はキーを放し、1分程度待ってから再度上記の手順を繰り返します。
2. 本機をご使用になる前にエンジンを 5分間アイドリングしてください。
3. エンジンスピードスイッチ(51)を一度押して走行モードにし、油圧システムを暖めるために、約 2~3 分間、低速で走行してください。



注意！

走行時は常にエンジンスピードスイッチを走行モードにしておいてください。

本機の色度調整はエンジンスピードスイッチ(51)ではなく、ドライブペダル(29)で行ってください。

本機の色度速度はドライブペダルを踏み込むほど速くなります。

エンジンが始動するまでドライブペダルを踏まないでください。



注記

ブレーキをかけずにシートから離れるとシートのセーフティスイッチが入りエンジンは停止します。

エンジンスピードスイッチ(51)

操作パネルのエンジンスピードスイッチ(51)で 3 段階のエンジン速度を選択することができます。

1. アイドリング(1300 RPM)：ウォームアップ／クールダウン用。スイッチライトは消えています。
2. 標準(2200 RPM)：移動や通常の清掃作業時。スイッチライトは点灯しています。
3. ターボ(2400 RPM)：坂道などでの清掃作業など、よりパワーが必要な時。スイッチライトは点灯しています。
4. アイドリング/標準を選択する場合には、スピードスイッチを押して放します。
5. ターボを選択する場合には、まずスイッチを標準に設定します。
6. その後、スイッチを約 2 秒間長押しします。標準に戻すには、再度スイッチを押します。
7. 本機には、アクセルペダル(29)が20 秒以上ニュートラルに ある場合、エンジンを自動的にアイドリング状態にする機能が備わっています。

再度アクセルペダルを踏むと、自動的に選択されていたエンジン速度に戻ります。

この機能が働いてアイドリング状態にある時にスピードスイッチ(51)を押すと、次にアクセルペダルを踏む時まで自動アイドリング機能は一時的に無効になります。

この機能はトラブルシューティング時や、ウォームアップのために本機を全速力で回転させたい場合に便利です。

自動洗剤希釈システム(オプション)の準備と使用方法(EcoFlex)

洗剤カートリッジ(24)の容量は最大 8.32L です。



注記

洗剤をマシン内部にこぼさないために、洗剤の注入をする前に洗剤カートリッジボックス(30)から洗剤カートリッジを取り外してください。

使用する洗剤毎にカートリッジを分けることをお勧めします。

洗剤の誤使用や洗剤同士の混入を防ぐために、カートリッジの白いラベルに洗剤の名前を記入できます。

図8 参照

- 新しいカートリッジを使用する場合は、キャップ(A)を外し、ボックスにカートリッジを入れます。
- ドライブレイクキャップ(B)を取り付けます。
- ボックス(C)には洗剤の残量を確認できる窓(D)があります。
- 洗剤の残量が少なくなったら、カートリッジに洗剤を補充するかカートリッジを交換してください。

パージ(除去)作業

異なる洗剤を使用する際には、洗剤システムに残っている前回使用した洗剤を残らず排出する必要があります。この作業をパージ(除去)作業と言います。



注記

洗剤システム内に残った洗剤が排出されるので、パージ作業を行う前に本機を排水可能な場所に移動してください。

洗剤切り替えの際のパージ作業(スクラブシステムを必ず OFF にしてください。)

1. 洗剤カートリッジを外します。
2. キースイッチ(50)を オン(I) にして、スタートアップが終わるまで数秒間待ちます。
3. 洗剤スイッチ(61)を約 2 秒間 長押しします。ディスプレイにパージアイコン(E)が表示され、洗剤スイッチのライトが点滅を始めたらスイッチを放します。

週毎のパージ作業(スクラブシステムを必ず OFF にしてください。)

1. 洗剤カートリッジを外し、きれいな温水を入れたカートリッジを取り付け、洗剤システムに接続します。
2. キースイッチ(50)を オン(I) にして、スタートアップが終わるまで数秒間待ちます。
3. 洗剤スイッチ(61)を約 2 秒間 長押しします。ディスプレイにパージアイコン(E)が表示され、洗剤スイッチのライトが点滅を始めたらスイッチを放します。



注記

パージ作業には最低 20 秒かかります。

洗剤システムの表示灯に関しては図 8 を参照してください。

通常、1 回のパージ作業で十分に洗剤システムから洗剤を排出できます。

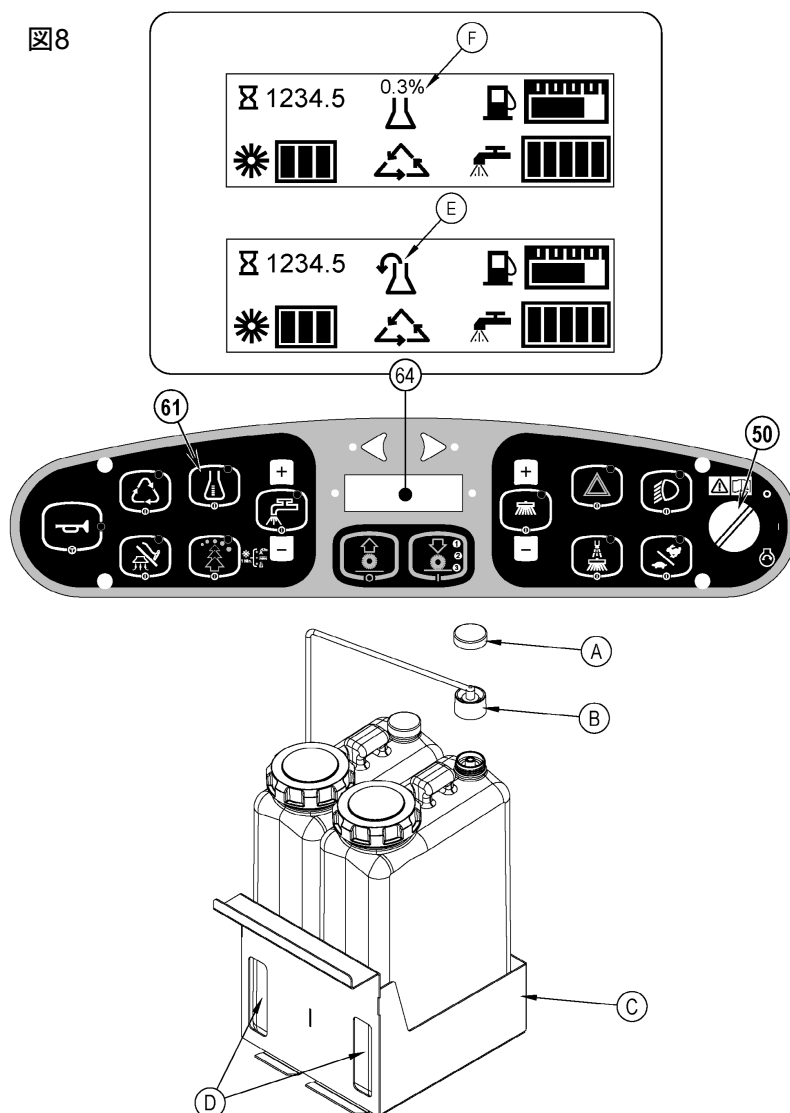
洗剤希釈率の調整(スクラブシステムを必ず ON にしてください。)

希釈率の初期設定は0.04%です。

希釈率を変更する場合

1. 洗剤スイッチ(61)を 2 秒間長押しします。
 2. 洗剤スイッチのライトが点滅し始めたら一度スイッチから手を放します。
 3. ライトが点滅している間に再度洗剤スイッチを押すとその都度洗剤の希釈率が次の設定へと変更されます。
0.04%、0.05%、0.07%、0.08%、1.0%、1.5%、2.0%、3.0%、3.8%
 4. 希望の希釈率がディスプレイの(F)に表示されたらスイッチを放します。
 5. 3 秒後に 設定が完了します。
- 希釈率(F)は希釈装置がオンのときは常に表示されます。
 - 希釈率が設定されると、清水の量に合わせて洗剤の吐出量は自動的に増減しますが、希釈率は変わりません。
 - 清水量に合わせて希釈率を設定する場合はサービスマニュアルを参照ください。
 - スクラブ洗浄中は、洗剤 オン/オフ スwitch(61)を押すと、いつでも洗剤システムを切り、清水のみの洗浄を行うことができます。
- スクラブシステムを起動して、ドライブペダル(29)を踏むまでは洗剤は吐出されません。

図8



注記

本機を長期間保管する場合や、EcoFlex の使用をやめる場合には前述の『週毎のページ作業』を行ってください。

スクラビング



警告！

本機の各機能を十分理解してから本機の実行を行ってください。
勾配のある場所での移動／作業の場合には、急停止や急旋回をしないでください。
坂を下る場合にはゆっくり走行してください。

本書の使用前の準備の項の指示に従ってください。
エンジンの始動の項の指示に従い、エンジンを始動させてください。

図9 参照

1. 本機のシートに座り、操作しやすいようにシート調整レバー(18)とハンドル角度調整レバー(27)でシートとハンドルの位置を調節してください。
2. パーキングブレーキ(28)を解除します。清掃作業場所に本機を移動させてください。
アクセルペダル(29)の前方を踏むと前進し、後方を踏むと後進します。
踏み込む力を加減しながら速度を調整してください。
3. 清水スイッチ(56)を5秒ほど押して床面を事前に濡らします。



注記

床面を事前に濡らすことで、乾いたブラシが床面を傷つけることを防ぎます。
必ずスクラブ ON スイッチ(54)を押す前に行ってください。

4. スクラブ ON スイッチ(54)を押します。
1度押し: ライトモード(スクラブ1)、2度押し: ミドルモード(スクラブ2)、3度押し: ヘビーモード(スクラブ3)
清水と洗剤(EcoFlex: 洗剤希釈システム搭載時)の量はスクラブモードに合わせて3段階に設定されています。(ディスプレイ(64)を参照ください。)
右側のブラシもスクラブモードの圧力に準じます。



注記

清水量は清水量低減スイッチ(56a)、清水量増加スイッチ(56b)を押すことで変更できます。
この変更は、スクラブモードを変更するとリセットされます。
リセット後は、スクラブモード毎に設定された清水量になります。



注記

スクラブ ON スイッチ(54)を押すと自動的にスクラブ、清水、吸引、洗剤(EcoFlex)、サイドブラシ類のシステムが操作可能な状態になります。
洗浄作業中、各スイッチを押すことで、どの機能もいつでも停止、再始動することができます。
汚水リサイクルキット(オプション)を搭載の場合、リサイクルシステムは自動的に起動しません。
起動させるためには、リサイクルスイッチ(60)を押してください。
汚水リサイクルシステムは回収タンクの水量がある程度まで到達し、清水タンクの水がある程度使用されるまでは稼働しません。

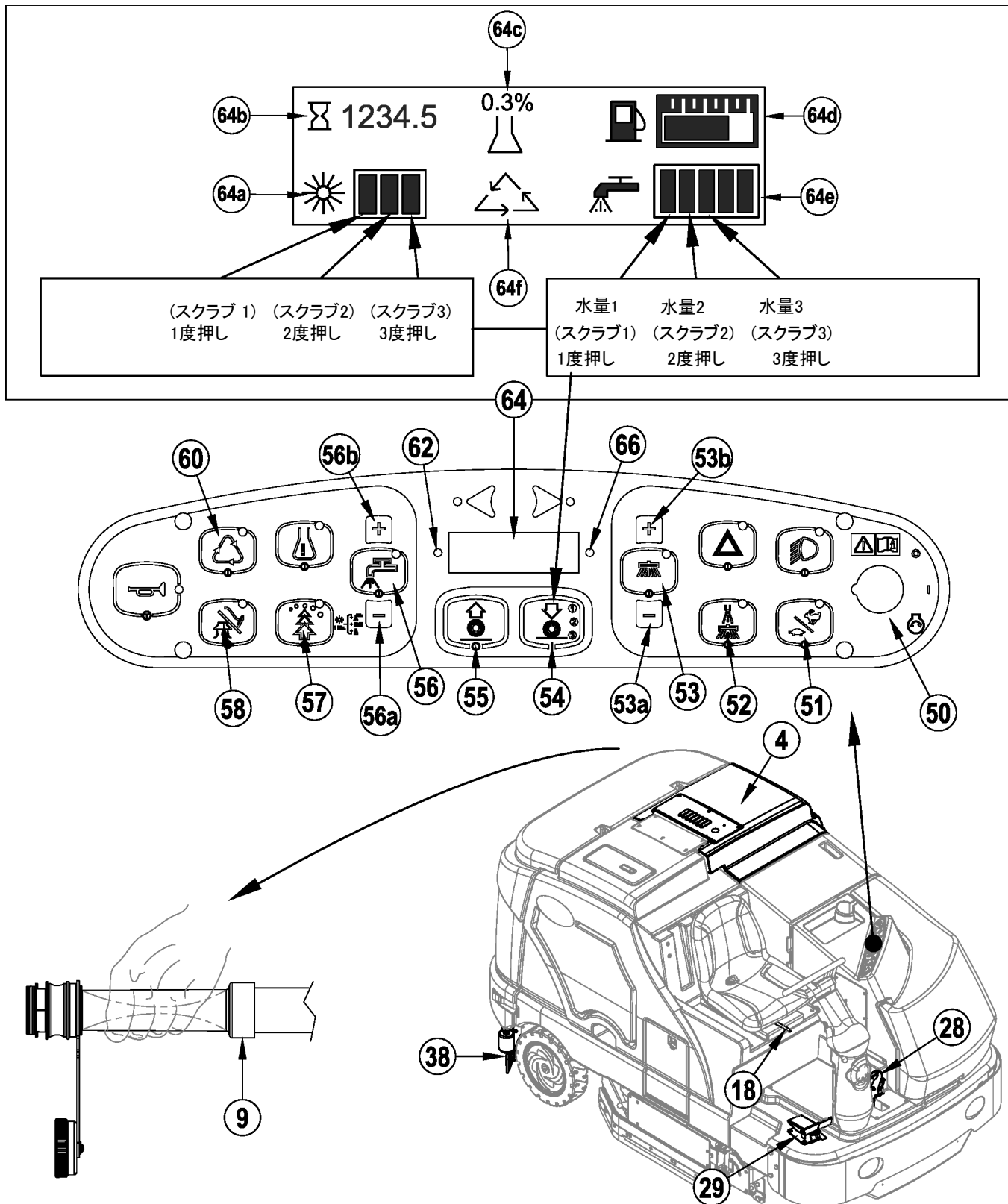
5. スクラブ ON スイッチ(54)を押すと、自動的にブラシ、スクイジー、サイドブラシ／両サイドブラシが床面まで降ります。アクセルペダル(29)を踏むとスクラブ、清水、吸引、洗剤(EcoFlex)、ブラシ／サイドブラシが回転し、洗剤が散布され、バキュームが作動します。



注記

後進する場合には、自動的にスクイジーは上がり、清水(洗剤)散布は止まります。

図 9



6. 本機を通常に歩く速度で真っ直ぐに前進させて洗浄作業を開始します。
折り返す場合は、清掃幅が 5~8cm 重なるように走行してください。
清掃する床面の状態によって走行速度と清水量を調整してください。
サイドブラシの高さはサイドブラシ昇降スイッチ(53a/53b)で調整できます。
サイドブラシを ON にすると、サイドブラシは前回使用時の高さに自動的にセットされます。
サイドブラシには、ほこりの多い環境で使用するためのミスト機能(ダストガード)(52)があります。



注記

サイドブラシ(53)を始動すると自動的にダストガード(52)も始動しますが、ダストガードスイッチ(52)を押すと停止します。



注記

エクステンドスクラブシステムを搭載している場合、清水がなくなるとダストガードは自動的に停止します。



注意！

床面への損傷を防ぐために、ブラシが回転している間は本機を走行させてください。
(アクセルペダル(29)がニュートラルの位置になってから 2 秒後にブラシの回転は停止します。)
減速用段差を越える場合は、ブラシデッキとサイドブラシ(装備されていれば)を必ず上げてください。
下ろしたまま状態で段差を越えようとすると、油圧システムがブラシを押し下げスクラブモードで清掃しようとするので、本機に損傷を与える恐れがあります。

7. 洗浄中は汚水の吸い残しがないかどうか、時々後方を確認してください。
吸い残しがある場合は、清水量が多い、回収タンクが一杯またはスクイジーの位置調整が必要だと考えられます。
8. 本機は清水と洗剤の量を節約するEcoFlexクリーニングモードに設定されています。
洗剤搭載時、EcoFlexスイッチ(57)が点灯しています。点灯している状態でスイッチ(57)を押すとEcoFlexクリーニングモードが解除され、一時的にブラシ圧、清水量、洗剤希釈率を強力にして洗浄力を高めることができます。スイッチを押すと60秒間ボタンが点滅し、設定中のブラシ圧、清水量、洗剤希釈率が一段階強力になります(希釈装置がOFFの場合はONになります)。



注記

EcoFlexクリーニングモードの解除はスイッチを2秒以上押し続けてください。
60秒かからずにきれいになったらEcoFlexスイッチを再度押し、今まで通りのエコモードに戻します。

9. 特に汚れがひどく一度のスクラビング洗浄で十分に汚れが落ちない場合は、ダブル洗浄をお勧めします。
ダブル洗浄は、1 度目の洗浄時にはバキュームスイッチ(57)を押してスクイジーを上げ、汚水を回収しないようにします。これにより清水(洗剤液)が床に長く留まり、洗浄力が上がります。
必要に応じてスカートホルダー(20)を使ってサイドスカート(13、31)も上げることもできます。
その後、2 度目の洗浄ではスクイジー、サイドスクートを下げて同じエリアを走行し、汚水を回収します。
10. 回収タンクには、タンクが満水になるとドライブシステム以外の全ての機能を停止するフロートスイッチがついています。フロートスイッチが作動したら、タンクの汚水を排水してください。フロートスイッチが入っている間は吸水もスクラブも停止します。



注記

フロートスイッチが作動すると、ディスプレイの注意表示灯(66)に黄色のライトが点灯し、回収タンク警告灯(66e)が表示されます。
回収タンクが満水でないのに、繰り返し回収タンク警告灯が表示される場合には、フロートの動きがタンク内で妨げられていないか確認してください。

-
11. 洗浄を停止する時は、スクラブ OFF スイッチ(55)を一度押してください。
これにより、スクラブブラシ、サイドブラシ、清水、洗剤散水を自動的に停止し、スクラブデッキ、ブラシは上昇します。少し遅れて(続いて)スクイジーが持ち上がり、その後吸引が止まるので、再度バキュームを始動させることなく床面の汚水を全て回収することができます。
 12. 排水可能な場所まで本機を移動させ、回収タンクの汚水を排水してください。
排水ホース(9)を引き抜き、キャップを外して排水します。(汚水が突然こぼれてこないように、必ずホースの先端を回収タンクの水量よりも高くしてください。)
回収タンク排水ホース(9) を押しつぶして排水量を調整することもできます。
清水タンクに清水(洗剤液)を補充して洗浄を再開します。



注記

回収タンクカバー(4)と回収タンク排水ホース(9)のキャップがしっかり閉じていることを確認してください。
密閉されていないと、汚水を適切に回収できません。



注記

オプションの設定についてはサービスマニュアルを参照ください。

使用後のお手入れ

1. 洗浄作業が終了したら、スクラブ OFF スイッチ(55)を押します。
全ての機能(ブラシ、スクイジー、バキューム、清水、洗剤液(EcoFlex モデル))が停止し、ブラシデッキ、サイドブラシ、スクイジーが自動的に上昇します。本機をサービスエリアまで移動して、メンテナンススケジュールに従って手入れしてください。
2. 清水タンクを空にするには、清水タンク排水ホース(37)を引き抜き、ホースを排水溝に向けてキャップを外します。排水後、きれいな水でタンクをすすいでください。
3. 回収タンクを空にするには、回収タンク排水ホース(9)を引き抜き、ホースを排水溝に向けてキャップを外します。
(汚水が突然こぼれてこないように、必ずホースの先端を回収タンクの水量よりも高くしてください。)
回収タンク排水ホース(9)は排水量を調節するために押しつぶすことができます。
排水後、きれいな水でタンクをすすいでください。
バキュームホース、排水ホースに損傷がないか確認し、損傷のある場合は交換してください。
4. ブラシを取り外し、ブラシの周りにゴミやひもなどが絡まっている場合は取り除いてください。
温水で洗い、よく乾かしてください。
5. スクイジーを取り外し、温水で洗い、再度本機に取り付けます。
6. ホッパー(33)を外し、きれいにしてください。本機の右側のスカートアッセンブリーを開き、バキュームホースを外して、ホッパーを引き抜きます。



注記

ホッパーを洗って本機に取り付けたら、忘れずにバキュームホースも再度取り付けてください。

7. 保管する前に、メンテナンススケジュールに従って必要なメンテナンスを行ってください。

エンジンの停止

1. すべての機能を OFF にします。
2. スクイジー、スクラブブラシ、サイドブラシを上げます。
3. エンジンスピードスイッチ(51)を押して“アイドリング”状態にして約 30 秒待ちます。
4. パーキングブレーキ(28)を踏みます。
5. キースイッチ(50)を オフ(O) にして、キーを抜きます。



注記

通常、キースイッチを OFF にしても燃料システム内の燃料がなくなるまでエンジンは少しの間(1~3 秒間)は動いています。

メンテナンス



警告！

点検、部品の交換・修理等を行う時は、必ずキースイッチをオフにし、キーを抜いてください。

メンテナンススケジュール

本機を長く安全にご使用いただくために、定期的に正しくメンテナンスをすることをお勧めいたします。

このスケジュールはあくまで目安としてお使いください。

実際の使用状況によってはメンテナンス回数を増やしたほうがよい場合もあります。

詳しくは弊社指定のサービススタッフにお尋ねください。

メンテナンス項目	毎日	週毎	月毎	年毎
前述の使用後のお手入れ項目				
パーキングブレーキ				
エンジンオイル				
ブラシのチェック/清掃/前後左右の入替				
フィルター表示灯、各種警告灯の確認 (油圧/エア)				
クーラント量の確認				
油圧オイル量の確認				
タンクとホースの排水/チェック/清掃				
スクイジーのチェック/清掃				
ホッパーのチェック/清掃				
洗剤の除去(EcoFlex)				
メインスクラブヘッドのチェック (スキッドが 3mm 以下になったら交換)				
注油（注油方法の項を参照）				

メンテナンス項目	15 時間毎	30 時間毎	150 時間毎	1000 時間毎
清水フィルターのチェック/清掃				
ラジエーター、オイルクーラーの清掃				
サイドブラシのメンテナンス				
清水散布用溝のチェック/清掃				
スクラブハウジングのチェック				
エンジンのメンテナンス(オイル交換)				
ステアリングラックのチェック、グリスの注入				
油圧オイルチャージフィルターの交換				
溜まった油圧オイルとフィルターの交換				
ラジエーターの洗浄				
燃料フィルターのチェック/交換				

※エンジンオイルは使用から最初の35時間後、それ以降は150時間ごとに交換してください。

エンジンオイル項を参照ください。

注油方法

月一回、本機の各箇所に注油してください。

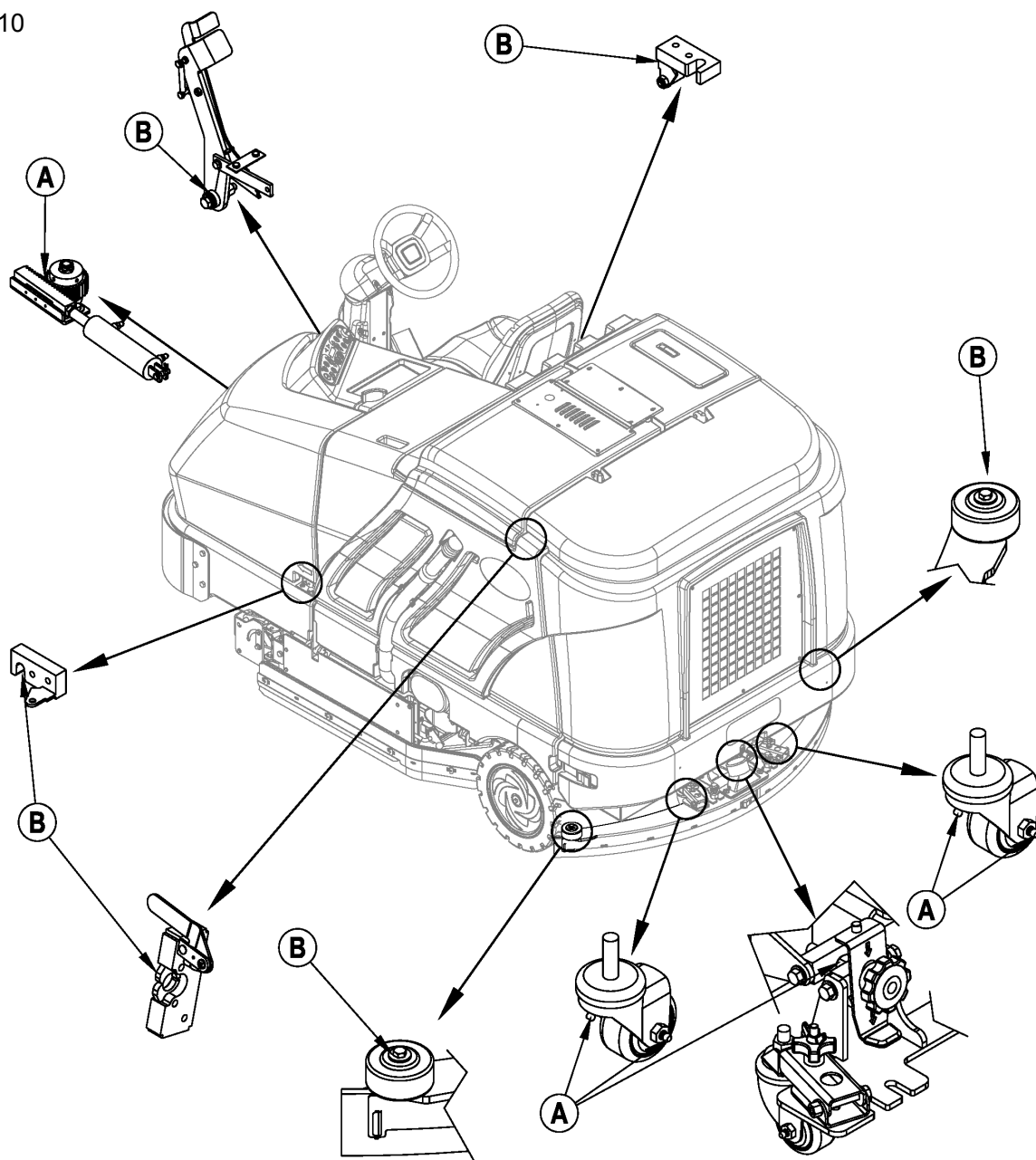
グリスの注油箇所(A)

- スクイジーキャスターホイール軸
- ステアリングラック
- スクイジー角度調整のねじ

軽機械油の注油箇所(B)

- スクイジーアッセンブリーの両端のホイール
- 燃料タンクカバーのラッチ
- 回収タンクのラッチ
- EcoFlex カバーのラッチ
- ブレーキペダル(パーキングペダル)の連結部分

図 10



サイドブラシのメンテナンス

サイドブラシは壁や端のホコリやゴミを拾い、メインブラシに送り込む働きをします。
サイドブラシが降りて回転する際に、図11の(A)から(B)の床面にサイドブラシの毛が届くように調整します。

サイドブラシの高さ調整

サイドブラシ降下調整スイッチ(53a)とサイドブラシ上昇調整スイッチ(53b)のスイッチを使ってブラシの高さを調整してください。



注記

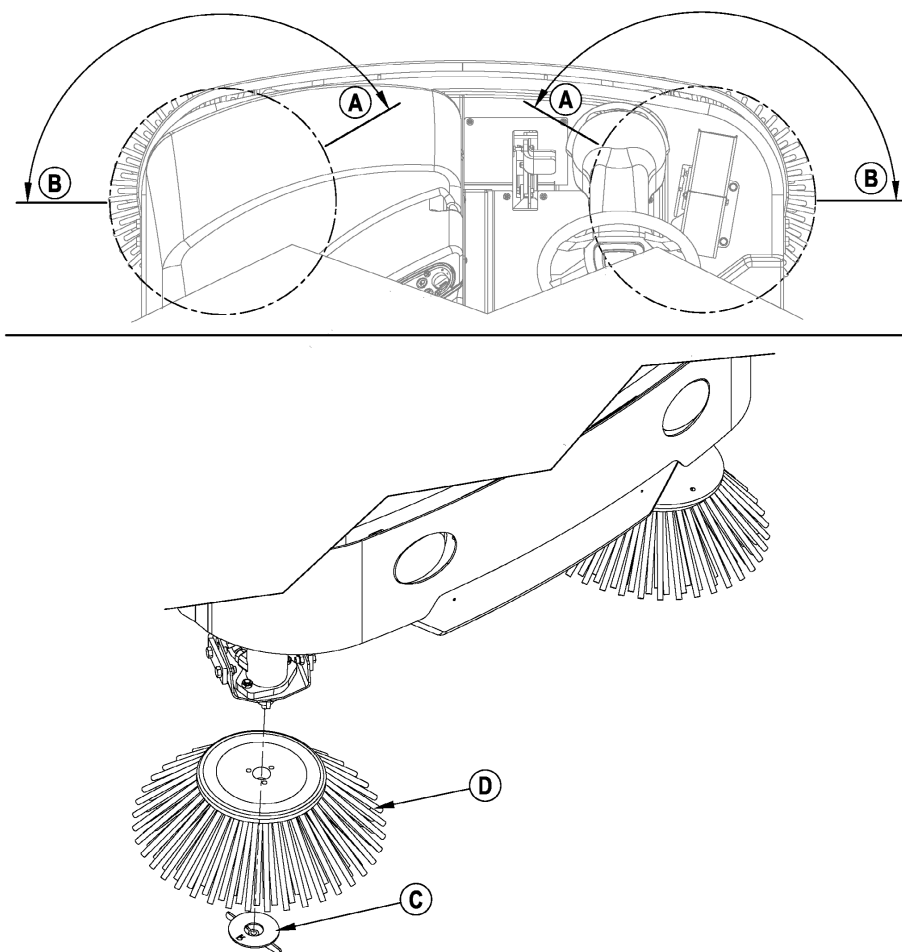
ブラシを下げるとブラシの位置は、その都度前回設定した高さのままですが、サイドブラシが摩耗していたり、交換した際には調整が必要です。

サイドブラシの交換方法

ブラシが摩耗し、毛の長さが7.6cmまで短くなった場合や、清掃力が落ちた場合にはブラシを交換してください。

1. サイドブラシを上げます。
2. つまみナット(C)を外し、サイドブラシ(D)を取り外します。
右側のつまみナット(C)は右に回し、左側のつまみナット(C)は左に回すと外れます。
3. 新しいサイドブラシをシャフトに取り付け、つまみナット(C)を締めます。

図 11



注記

本機を保管する際には、必ずサイドブラシを上げてください。

スクイジーのメンテナンス 図12 参照

スクイジーを使用しても汚水の吸い残しがある場合は、ブレードが汚れているか、損傷が考えられます。スクイジーを取り外し、温水でよく洗ってブレードに損傷がないか確認してください。ブレードに裂け目や破れ、ゆがみや摩耗がある場合にはブレードを裏返すか、ブレードを交換してください。

リアスクイジーブレードの裏返し/交換方法

1. スクイジーを床面から持ち上げて、センターラッチ(A)を緩めます。
2. ストラップ(B)を取り外します。
3. リアブレードを調整ピンから抜きます。
4. スクイジーブレードは四隅ともに使うことができます。
ブレードのきれいで損傷のない角が床面の前側にくるようにしてください。
ブレードの4つの角全てに切れ目や傷があったり、摩耗している場合には、ブレードを交換してください。
5. 取り外しの逆の手順でブレードをスクイジーに取り付け、スクイジーを本機に取り付けます。

フロントスクイジーブレードの裏返し/交換方法

1. スクイジーを床面から持ち上げて、2 カ所のスクイジー固定レンチ(40)を緩めてスクイジー(38)を本機から取り外します。
2. リアストラップを取り外します。
3. フロントブレードを固定しているウイングナットを取り外し、ストラップとブレードを外します。
4. スクイジーブレードは四隅ともに使うことができます。
ブレードのきれいで損傷のない角が床面の前側にくるようにしてください。
5. ブレードの4つの角全てに切れ目や傷があったり、摩耗している場合には、ブレードを交換してください。
6. 取り外しの逆の手順でブレードをスクイジーに取り付け、スクイジーを本機に取り付けます。



注記

スクイジー固定レンチ(40)のハンドル位置により、スクイジーを取り外す/取り付けるためにレンチを緩めたり締めたりしにくいことがあります。
その場合は、図 12 ハンドル(C)を持ち上げて、レンチを緩める／締めるスペースができるように回します。
その後、レンチを所定の位置に下ろすと、レンチを緩める／締めることができます。

スクイジーの調整

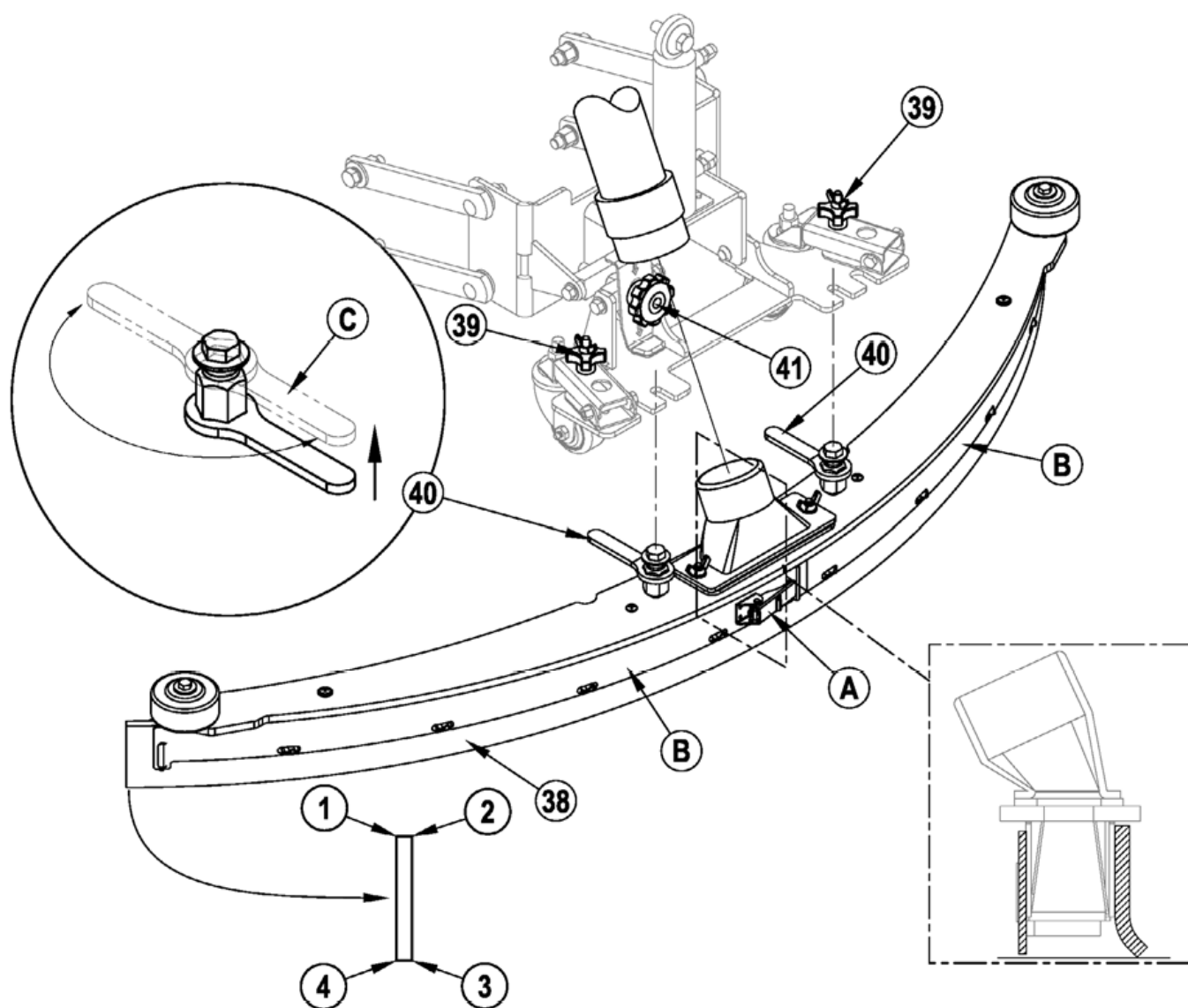
スクイジーの角度と高さを調整することができます。

スクイジーの角度／高さ調整

スクイジーを裏返した場合や、交換した場合、または床面に吸い残しがあるような場合にスクイジーの角度を調整してください。

1. 本機を水平な場所に止めます。
2. スクイジーを下げて、本機を少し前に移動して、スクイジー角度調整ノブ(41)とスクイジー高さ調整ノブ(39)を使ってリアブレードが端から端まで床面に水平に触れるように、また図のようにブレードが少しか曲がるようにスクイジーの角度と高さを調整します。

图 12



サイドスカートのメンテナンス 図13 参照



注意！

ブラシの交換や、アクセスパネルを開ける前に必ずキースイッチを オフ(O)にしてキーを抜いてください。

サイドスカートの役割は、汚水を確実にスクイジーに届け、回収することです。

通常の清掃作業でサイドスカートのブレードは摩耗していきますので、適宜メンテナンスが必要です。

サイドスカートの裏返し/交換

1. スカートラッチ(12/32)を外して、図 13 のようにスカートアッセンブリー(A)を開けます。
2. スカートハウジングとブレードを留めているパーツを全て取り外します。



注記

サイドスカートのメインブレードは工具不要で取り外しができるリテイナーで留められています。
ウイングナット(B)を緩めて、スカートアッセンブリーの外側のノブ(C)を水平になるまで回し、穴にはめ込みます。
内側の小さいブレード(D)は 4 個のスクリューで留められています。

3. サイドスカートブレードは四隅ともに使うことができます。
ブレードのきれいで損傷のない角が本機の中央にくるようにしてください。
ブレードの 4 つの角全てに切れ目や傷があったり、摩耗している場合には、ブレードを交換してください。

サイドスカートの傾き調整

サイドスカートは床面に合わせて定期的に傾きの調整を行ってください。

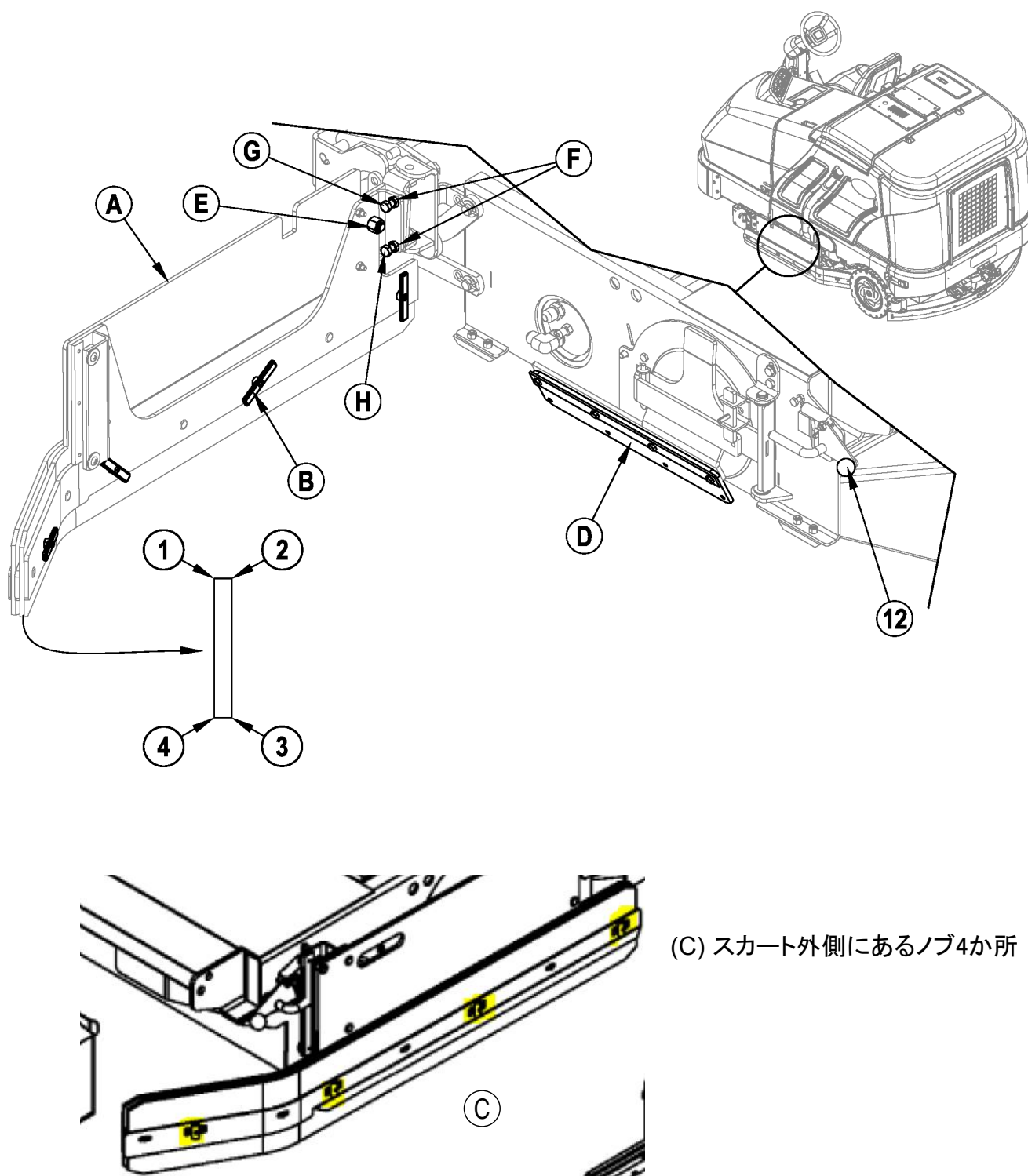
1. スクラブデッキが上がった状態であることを確認してください。
2. まずナット(E)を緩め、その後ナット(F)を緩めて、スクリュー(G、H)を以下のように回してサイドスカートの高さを調整します。
3. スクリュー(G)を時計回り、スクリュー(H)を反時計回りに回すとスカートアッセンブリーの後方が下がります。
4. スクリュー(G)を反時計回り、スクリュー(H)を時計回りに回すとスカートアッセンブリーの後方が上がります。



注記

調整は、初めにデッキを上げた状態で床面と平行になるよう調整してください。
その後、少しずつ調整して、汚水回収に適した位置を決定してください。
ブレードの後方を下げすぎないでください。
過度にブレードが折り曲がり、必要以上に摩耗してしまいます。

図 13



ホッパーのメンテナンス

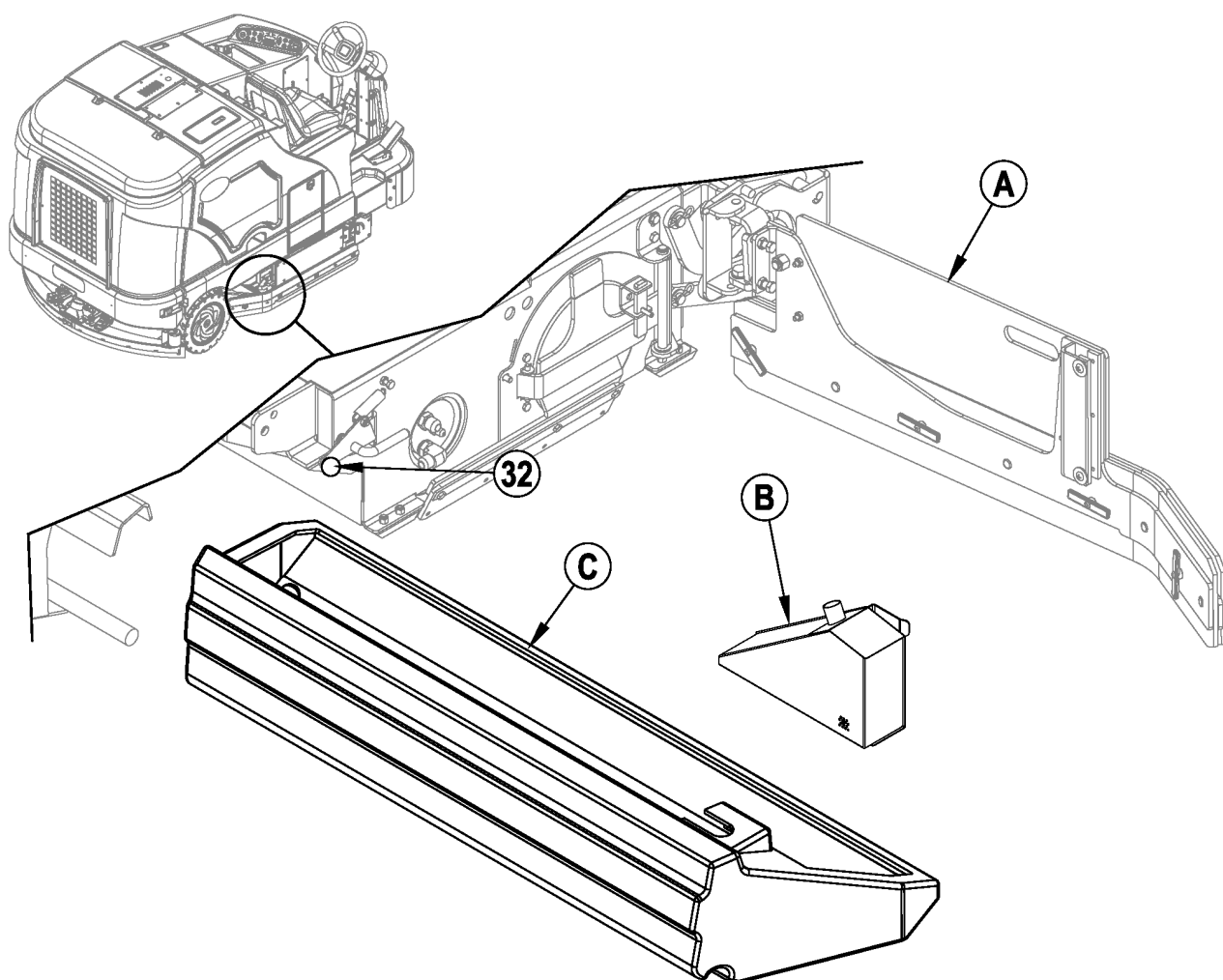


注意！

アクセスパネルを開ける前に必ずキースイッチを オフ(O)にしてキーを抜いてください。

1. 右側スカトラッチ(32)を押し下げて、スカートアッセンブリー(A)を開きます。
2. スクリーン(B)からバキュームホースを取り外し、ホッパー(C)を本機から引き抜きます。
3. スクリーン(B)をホッパー(C)から取り外し、ゴミを廃棄し、どちらもよく水洗いをしてきれいにします。

図 14



トラブルシューティング

サーキットブレーカーのショート

サーキットブレーカーはサーキットブレーカーパネル(26)上にあります。
サーキットブレーカーは電子回路とモーターを過負荷による損傷から保護しています。
サーキットブレーカーが動作してしまう場合には、原因を調査してください。
それぞれ各電気回路のショートが考えられますので弊社サービスセンターまでご連絡ください。

VACC1 サーキットブレーカー(CB1/20A)

- 右後ブレーキ/ウィンカーランプ
- 左後ブレーキ/ウィンカーランプ
- 右前ウィンカーランプ
- 左前ウィンカーランプ
- テールランプ
- ヘッドライト

VACC2 サーキットブレーカー(CB2/20A)

- ウォッシュホースソリューションポンプ(M8)
- サイドスイープミストポンプ(M5)

VACC3 サーキットブレーカー(CB3/15A)

- サイドスイープリフトアクチュエーターモーター

VACC4 サーキットブレーカー(CB4/20A)

- スクラブブラシソレノイド(L4)
- スクラブ圧低減(L5)
- スクラブシリンダーロックソレノイド(L6)
- スクラブ圧増加(L7)
- サイドスイープ/スクラブソレノイド(L8)
- サイドスクラブ上昇ソレノイド(L9)
- メインソリューションソレノイド(L10)
- サイドスクラブソリューションソレノイドバルブ(L11)
- エクステンブスクラブウォーターソリューションソレノイド
- ケミカルポンプ

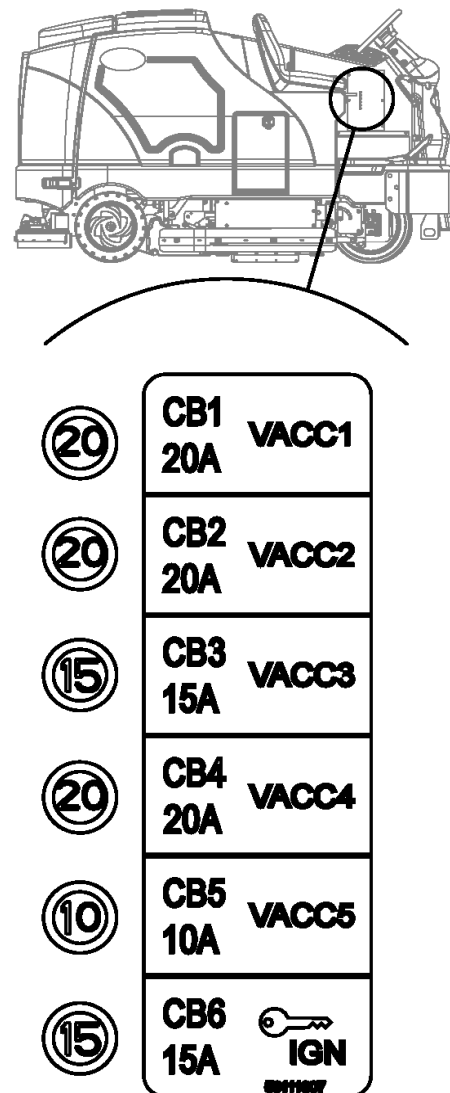
VACC5 サーキットブレーカー(CB5/10A)

- バキュームモーターソレノイド(L1)
- スクイジー下降ソレノイド(L3)
- スクイジー上昇ソレノイド(L3)
- メインソリューションポンプ(M4)
- エクステンブスクラブポンプ(M6)

イグニションサーキットブレーカー(CB6/15A)

- グローブラグリレー
- メインパワーリレー
- バックアップアラーム音
- ホーン
- エンジンシステム(燃料ポンプ、イグニションシステム)
- ダッシュボードパネル

図 15



問題が解決したら、ボタンを押してサーキットブレーカーをリセットします。
ボタンを押しても戻ってしまう場合は、5 分間待ってから再度ボタンを押してください。
サーキットブレーカーが繰り返し動作してしまう場合には弊社サービスセンターまでご連絡ください。

トラブルシューティング

以下のトラブルシューティングで症状が解決しない場合は、弊社のサービスセンターまでご連絡ください。

症状	原因	対策
吸水力が弱い 吸い残しがある	スクイジーブレードの磨耗・破損	ブレードの裏返し・交換
	スクイジーの調整不良	ブレードが床に全幅に渡って、均一に触れるように角度を調整
	回収タンクが満水	汚水を排水
	回収タンク排水ホースの破損、漏れ	キャップを確実に閉める、または交換する
	バキュームホースの詰まり、破損、漏れ	清掃する、または交換する
	回収タンクガasketの破損	交換、カバーを密閉する
	スクイジーの詰まり	清掃
	洗浄液が多すぎる	洗浄液を少なくする
洗浄力が弱い	ブラシ/パッドの磨耗	交換
	ブラシの選定ミス	弊社までご連絡ください
	洗浄液の選定ミス	弊社までご連絡ください
	洗浄液不足	洗浄液を多くする
	走行スピードが速すぎる	作業スピードを落とす
	洗浄液の希釈率が不適切	希釈率の設定を確認する(EcoFlex)
洗浄液が少ない、 または出ない	清水タンクが空	清水/洗浄液を補充する
	清水排出ライン、バルブ、フィルター、溝の詰まり	排出ライン、溝に水を流し清掃する、フィルターを水洗いする
	ソリューションシステムが OFF になっている	操作パネルのソリューションスイッチを押して始動させる
	ソレノイドバルブの詰まり、破損	清掃する、または交換する (サービスマニュアルを参照)
本機が動かない	15A ヒューズ サーキットブレーカー (CB6)が作動している	電気系統のショートを確認しリセット
	メインシステムエラー	エラーコード確認 (サービスマニュアルを参照)
ホイールが前後進しない	パーキングブレーキがかかっている	パーキングブレーキを解除する
	牽引バルブの設定が不適切	正しく設定する
	サーキットブレーカーが作動	ショート箇所を確認し、リセット
回収タンクが満杯ではないのに 吸引が止まり、 “FULL”の表示が出る	フロートスイッチが動いていない	フロートの動きを妨げているゴミなどをタンク内から取り除く
洗浄液が出ない (EcoFlex)	洗剤カートリッジが空	洗剤カートリッジを補充する
	洗剤ラインの詰まりやねじれ	洗剤システムのパージ作業をする ラインのねじりをなくして真っ直ぐにする
	洗剤カートリッジのドライシールキャップが正しく締められていない	ドライシールキャップを締めなおす
	洗剤ポンプの配線が接続されていない、または誤って接続されている	配線を正しく接続する

アクセサリ/オプション

SC8000 1300D



No.		品 番
1	SC8000 1300 D 本体	56108125
2	メインブラシ 48 プロレン (シリンダータイプ)	56110011
3	サイドスウィーピングブラシ (ポリプロピレン)	56462252
4	サイドスカートブレードキット レッドガム 耐油性	56111206
5	スクイジーブレードキット レッドガム 耐油性	56111650
6	ドレインホース	56381930
7	サクションホース(スクイジー取付側)	56305377
8	サクションホース カフ付	56111089
9	バキュームホース	56331332

オプションパーツ

10	メインブラシ 48 ダイナグリット 80 (シリンダータイプ)	56110012
11	メインブラシ 48 ミッドライト 180 (シリンダータイプ)	56110013
12	サイドブラシ ソフト	56505629
13	サイドブラシ ヘビーデューティー用	56477812
14	サイドスカートブレードキット ラバー 一般清掃	56111207
15	サイドスカートブレードキット ポリウレタン 耐油/耐薬品	56111210
16	スクイジーブレードキット ラバー 一般清掃	56111652
17	スクイジーブレードキット ポリウレタン 耐油/耐薬品	56111203
18	オーバーヘッドガードキット	56110300
19	ワンドキット	56110730
20	EcoFlex-自動洗剤希釈装置	56108131

SC8000 1600D



No.		品 番
1	SC8000 1600 D 本体	56108127
2	メインブラシ 48 プロレーン (シリンダータイプ)	56110011
3	プロレーンブラシ (16インチ)	56505834
4	サイドスカートブレードキット レッドガム 耐油性	56111206
5	スクイジーブレードキット レッドガム 耐油性	56111650
6	サイドスクラブブレードキット レッドガム 耐油性	56111635
7	ドレインホース	56381930
8	サクションホース(スクイジー取付側)	56305377
9	サクションホース カフ付	56111089
10	バキュームホース	56331332

オプションパーツ

11	メインブラシ 48 ダイナグリッド 80 (シリンダータイプ)	56110012
12	メインブラシ 48 ミッドライト 180 (シリンダータイプ)	56110013
13	ダイナグリッドブラシ (16インチ)	56505832
14	ミッドライトグリッドブラシ (16インチ)	56505838
15	サイドスカートブレードキット ラバー 一般清掃	56111207
16	サイドスカートブレードキット ポリウレタン 耐油／耐薬品	56111210
17	スクイジーブレードキット ラバー 一般清掃	56111652
18	スクイジーブレードキット ポリウレタン 耐油／耐薬品	56111203
19	オーバーヘッドガードキット	56110300
20	ワンドキット	56110730
21	EcoFlex-自動洗剤希釈装置	56108131

アフターサービスと保証

- ご購入いただいた日から、1年間を保証期間とし、保証期間中に発生した故障は原則として無料修理させていただきます。なお、保証期間中でもお客様の使用上の誤り、または不当な修理や改造による故障・損傷および消耗品については、有料となりますのでご注意ください。
- 使用中にトラブルが発生した場合、修理を依頼される前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、点検してください。その上で、回復しない場合には、ご自分で修理なさらないでお買い求め先または、弊社支店・営業所・出張所までご相談ください。
- 保証に関する詳しい内容は、保証書を参照してください。

MEMO



ニルフィスク株式会社

本 社 〒222-0033
横浜市港北区新横浜2-5-15 新横浜センタービル7F
TEL：045-620-3658 FAX：045-473-2511

サービス 〒252-0243 相模原市中央区上溝2422-1
TEL：045-620-3659 FAX：042-785-2519

